

ベストサービスアワード

サービスの向上のための1年間の取組みを発表・表彰する研修企画です。

第16回ベストサービスアワード（最終選考会研修）

【ベストサービス賞】

ふれあいライフ原 障害者支援施設



【タイトル】

HARA's FARM 栄養コンテスト出品

【動機】

就労継続支援事業所原では、仕事には「稼ぐ」という意義に加え、「社会の中で役に立っている」という「誇り」も重要と考え、「障害者が作ったからすごい」を目指すのではなく、「障害の有無に関係なく、商品として誇れるもの、大きなお店でも売れるものを作ろう」をコンセプトに就労支援を行なっています。そこで、生産者の高齢化により消えようとしている原の特産品“イチゴ”を後世に残す使命を担うこととし、地元農家さんと協力しました。それから2年経ち、農業アドバイザーより「大変な作業に取り組むご利用者の頑張りを職員の「がんばった」などの声だけではなく、日本全国で有名なコンテストに原のイチゴを出品してみて結果をご利用者に見てもらってはどうか」と提案を頂きました。

「コンテストへ出品する」という目的を持って作業に取り組むことでご利用者が作業に対して前向きに頑張れるのではないかと思います取り組みを始めました。

【取り組み内容】

- ① BLOF理論に基づいた菌、肥料、堆肥作りなどを学ぶなど、毎日の作業を見直し、生産の安定化を図った
- ② 温度や室温だけでなく、栽培に必要な炭酸ガス濃度や硝酸イオン濃度なども細かく数値化し、そのデータを記録するなどとして品質の向上を図った
- ③ いちごのオーナー制度（区画販売）を取り入れ、安定収益と一定の来場者を獲得する
- ④ オーナーをはじめとする地域の方々とふれあう、繋がる場を提供し、ご利用者に生産者としての「誇り」と「自覚」を持ってもらう
- ⑤ コンテストへ出品し、結果をご利用者やオーナーへ説明し、成果を実感していただいた

【授賞式での評価コメント】

障害者事業の中でもいちご栽培が増えつつある中、障害者事業であることを特色とせず、「はらいちごの復活」というストーリー、「硝酸イオンの水準が全国トップクラス」という品質そのものの特色を打ち出す方向性が描かれた本レポートは、今後の障害者就労事業の模範となりうるものと言います。また、障害者就労事業の最大の懸案である営業面においても、「オーナー制度」を導入することで安定収入に結び付け、さらにオーナーをはじめとする地域住民との交流のきっかけとしている点も評価され、ベストサービス賞を受賞することとなりました。